



地域日本語支援ニュース こだま 第408号

2021.9.9



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

1 ■ともに生きる：埼玉県より ■

クルドの伝統刺繍「オヤ」で目指す共生社会

片山奈緒美

2 ■進学進路ガイダンス情報（9月、10月） ■

=====

1 ■ともに生きる：埼玉県より ■

埼玉県には、クルドの人々が多く住んでいる地区があります。今回は、その支援活動に携わっている片山奈緒美さんに、クルド人女性が講師を務める手芸教室をご紹介いただきました。美しい伝統刺繍が人気を集め、コロナ禍でも継続的に開かれているということです。

.....

クルドの伝統刺繍「オヤ」で目指す共生社会

桜美林大学・玉川大学 非常勤講師

筑波大学大学院 博士後期課程院生

片山 奈緒美

◆日本で暮らすクルドの人々

「〈支援〉として行っているのではありません。目指すところは、あくまで〈共生〉です」

1990年代以降、主にトルコから来日したおよそ2,000人のクルド人が埼玉県に集住しています。川口市芝地区を中心に近年は近隣の他市にも居住が広がっています。彼らはトルコでの迫害や差別を理由に日本で難民申請していますが、いまだ一人も難民認定されていません。その結果、出国しない場合は入管施設に収容されたり、仮放免措置を受けている人々もいます。日本で生まれた世代もずいぶん増えました。

#### ◆「オヤ」教室での交流

冒頭の文章はそうしたクルドの伝統刺繍「オヤ」教室の日本人主宰者の言葉です。この教室はクルド人女性がボランティア講師となり、毎月平日昼間に川口市・芝にあるブックカフェ〈ココシバ〉で開かれていて、講師と参加者が互いに触れあいを楽しみながら、黙々と針を動かします。針や材料は教室側が提供するため身一つで参加できる手軽さもあり、地元の方もいれば、少し遠くから通ってくるリピーターも。いまは感染対策のためクルドのお菓子を食べながらのティータイムはなくなりましたが、参加者のみなさんはお持ち帰りするお菓子を楽しみにしているとか。

#### ◆戻ってきた笑顔

一方、講師を務めるクルド人女性には変化がありました。彼女たちは辛い経験をして日本に逃れてきたものの難民として認められず、たいへん厳しい生活を強いられています。しかし、教室主宰者によると、講師をするようになってから笑顔が増え、自分の口で直接オヤを伝えたいと熱心に日本語を勉強するようになったそうです。

#### ◆共生を目指して

また、オヤのアクセサリなどを揃えたブランドも立ちあがっています。Harika（ハリカ）とSteruk（ステェルウク）です。どちらも細かな手作業による作品ばかり。両ブランドのうち、Sterukはフェアトレードにこだわった商品構成になっています。日本人が「買ってあげる」のではなく、クルドの女性に魅力のあるオヤ作品をつくってもらい、それを気に入った人が適正な価格で購入する。美しいオヤは〈支援〉ではなく〈共生〉を意識した取り組みの象徴と

なっています。

クルド文化教室（オヤ教室連絡先）：<https://www.facebook.com/kurdkawaguchi>

Harika：<https://harika.thebase.in/about>

Ster u k：<https://steruk.stores.jp/about>

---